



第4回

地域のいのちを守る。

そう、いう使命感をもった  
医師を育成してほしい。

青森県八戸市は地域救急医療の先駆的な自治体として知られている。東日本大震災の際も、自らが被災地でありながら、各地に応援の救急チームを派遣した。それでも、慢性的な医師不足という悩みは他の地域と変わらない。

青森県八戸市市長

小林眞氏

聞き手・女優

紺野美沙子さん

**紺野** 市長さんの執務室を拝見したら、小さいヘリコプターの模型が置いてありましたが……。

**小林** あれはお医者さんを運ぶドクターヘリのラジコン模型なんです。緊急医療の面では、

八戸市は全国のモデルケースになれると自負しています。その

目玉というのがドクターヘリなんです。平成二十一年の三月から配備して、いま県内一機体制でやっています。それからドクターカーというシステムもあります。

**紺野** ドクターカーというのは救急車とは違うんですか？



### 小林眞

*Yoko Kobayashi*

昭和二十五年、八戸市生まれ。  
東北大学法学部卒業後、青森県庁入庁。  
昭和五十四年自治省(現総務省)入省後、  
平成三年埼玉県浦和市企画部長、  
平成十三年全国市長会行政部長、  
平成十五年自治医科大学大学事務部長などを  
歴任。平成十七年総務省を退職。  
その年の十二月八戸市長に就任。現在三期目。



**小林** われわれがやっているのはラピッド・レスポンス・ドクターカーという方式で、お医者さんを運ぶだけなんです。最寄りの消防署から救急車が駆けつけてきて、患者さんの手当てを最低限やって搬送する。その搬送コースのどこかでドクターカーがドッキングするというシステムなんです。

**紺野** 病院に着くよりも早く、お医者さんに診てもらえるわけですね。

**小林** そうです。医師と看護師が常待機しています。ドクターカーはドクターヘリの翌年、平成二十二年の三月からスタート

しました。これは全国に先駆けての導入だと思います。ドクターヘリの出動要請は年間で六百件くらい、ドクターカーは千件くらいですね。東日本大震災の時は、岩手や宮城、福島まで救急の応援に行きました。

トしました。これは全国に先駆けての導入だと思います。ドクターヘリの出動要請は年間で六百件くらい、ドクターカーは千件くらいですね。東日本大震災の時は、岩手や宮城、福島まで救急の応援に行きました。

**紺野** 救急医療に力を注ぎっかけになったのは、どういうことなんですか？

**小林** 現場の熱意ですね。私はいま二期目ですが、最初に市長になったときに、市民病院救命救急センター長の今明秀先生から「ヘリコプターを導入したい」という相談があったんですけど、日本では始まったばかりだけど、

Yoロッパではもう常識だと。ただ、法律によつて県が動かないと導入できない。そこで、今先生と一緒に県のほうに何回も何回も働きかけて、ようやく実現したんです。

**紺野** 救急医療に関しては先進的な取り組みがされているわけですが、地域医療全般ということではいかがですか？

医師充足率は七十%を下回っています。これは深刻です。

**紺野** この状況を改善する方法というのはないのでしょうか？

**小林** まず医師の養成方法を考えないといけない。私はそう思うんです。さきほど話に出た救命救急センター長の今先生は、自治医科大学の出身なんです。実は私も二年間、自治医科大学の事務部長をしていたんですよ。自治医科大学設立の趣意というのは、地域医療を支える医師の育成なんです。四十七都道府県から二人から三人の枠で学生をとって、修学資金はそれぞれの自治体が貸与する。で、卒業後

九年間、知事が指定する地域の医療機関で働くと返還免除になるんです。

**紺野** そうなんですか、知らなかった。卒業生はちゃんと義務を果たすんですか？

**小林** 九十五%はちゃんと義務を果たしますね。それはやはり教育の力だと思えます。大学に入った一年生のときから、地域医療がいかに大切かを叩き込まれるんです。夏休みとか冬休みは、先輩が勤務している診療所へ行って、看護師さんから教えてもらいながら患者さんの足を洗ったりするわけです。そうすることで、地域の診療所が日

本の医療を最前線で支えているんだということ、ちゃんと自覚するんです。

**紺野** それはすばらしい。普通、医学部に入っても、地域の医療にはなかなか目が向かないでしょうからね。

**小林** 私は自治医科大学で仕事をしました経験から、ああいう大学をもっとつくつてもいいんじゃないかと思っています。アメリカのメディカルスクールのように、普通の大学を卒業してから、あるいは実社会でいろいろな社会経験をしてから、あらためて医師になりたいという意志を固めたモチベーションの高い人材を

受け入れて、臨床を中心とした形で鍛えていく。それも、地域医療を目的としたメディカルのスクールがあればいいなと思っています。

**紺野** 今回の東北医療福祉事業協同組合のプロジェクトは、リアルタイムにお医者さんにもう一度現場に戻ってもらうというものなんですけど……

**小林** 諸手をあげて大賛成です。そういったお医者さんたちが、自分たちのできる範囲で活動できるようなシステムを、国あるいは行政が率先して整備すべきだと思うんです。

**紺野** ベテランの先生は知識、経験のかたまり。ちよつとした言葉にも、やつぱり重みがありますからね。



八戸市立市民病院救命救急センターに配備されているドクターヘリ(写真上)とドクターカー(写真下)。24時間体制で地域住民のいのちを見守る

**小林** 地域住民の健康を総合的に見守るプライマリケアでいけば求められるのは、その部分なんです。ベテランの先生方に医学の最先端の治療を担ってもらう必要はないわけです。最初に診ていただくときに、その知識、経験のかたまりを活用していただければいいんです。

**紺野** ほんとに、診ていただいただけで気持ちが安定して、効果があると思いますね。地域医療を再生させるためには、そういった先生方の協力が不可欠ですね。今日はありがとうございます。

### 紺野美沙子

*Misako Konno*

昭和五十五年、NHK連続テレビ小説『虹を織る』でヒロインを演じる。その後、女優として活躍するが、国連開発計画親善大使など国際協力の分野でも活躍。平成二十二年から「紺野美沙子の朗読座」を主宰。平成二十六年五月・七月、演劇『日本の面影』を東京および全国で上演予定。